

令和4年度 学校評議委員会 議事録概要

日 時：令和5年2月9日（木）午後4時30分～午後6時
場 所：日野市立日野第一中学校 一階会議室一
参加者：谷、伊野、下田、石田、三浦、山本、山口、青塚、富田
和田、木村、仙波、須田、真下、

1 校長挨拶（和田）

学校評価について、御意見をいただいたことを基に来年度に生かしていきたい。

スキー教室では、1年生参加者全員が無事実習に参加できた。体調不良者も出なかった。

2年生は、TGGに1泊で宿泊行事を行った。外国人講師のもと少人数グループで英語活動を行い、生徒も充実したようであった。

市内全校スキー教室は無事行えたので、来年度以降も宿泊行事を実施していけるのではないかと思う。

学校では、コロナ感染者も減少してきており、3年生は受験に向けて取り組んでいる。

ICTに関する構内研究の発表を行い、高い評価を得ることができた。

2 学校生活の様子

○生活

・市内全体の傾向として不登校が増加している。スクールカウンセラーの予約が常に埋まっており、ニーズが追いついていない。

・部活動は学校全体で盛んである。小中交流会でも生徒が活発に活動していた。

○教務

・授業改善に向けて、全教員が研究授業を行い、授業力向上を図った。ネット上に授業動画をアップし、空いている時間に他の教員が視聴しチャットで意見交換をし、働き方改革と並行して授業改善を行った。

○進路

・都立推薦入試があり、40%ほどの合格率であった。今年度から本格的に都立高校の受験手続きがWebシステムに移行したが、様々な不具合があり対応に苦慮した。

3 学校評価について 別紙資料

資料に基づいて協議

・山本：成果指標の表記が間違っているのでは？

→和田：評価点の数字が間違っている。訂正いたします。（副校長が正しい数値を発言）

・和田：昨年度の様子がわからない中で、私が指標の設定値を設定したため、特に取り組み指標が低い評価点になってしまったところがある。

・木村：「部活動を指導できる方がボランティアではなく活動できる環境を整えれば」とありますが、教員の負担があることは事実。

→須田：専門外の教員が部活動を持っているケースがあり負担がある。部活動指導員がいればよいが、人脈や人材がなく活用できていない。

・和田：部活動指導員の予算は少しずつ増やしていくとは聞いている。地域に人材がいたら協力いただけるとありがたい。

・青塚：プロや専門的な知識が高い人だけでなく、経験の保護者などであれば人材は多くいると思う。指導員として契約された方でなければ引率等協力するのに問題はありますか？

→和田：引率等は保護者の協力でも可能である。

・谷：ある程度の責任が生じるため、報酬を得ている立場の指導員が担うべきという考えは必要。保護者に助けてもらうのであれば、報酬を出して行うのが良いと思う。

・仙波：私の部では、外部指導員が手伝ってくれることになったが、月2回までしか報酬出せないという予算の問題が現実としてあるので改善できるように働きかけていただきたい。

・木村：「PCの苦手な生徒へのサポートを」という意見があるが

→仙波：PCの操作が難しい生徒は、文字入力等も含めてほとんどない。PCを使って学習ができるという点では課題があるので、PCを使ってどのように学力を伸ばすかという視点ではサポートを改善していく必要がある。

・青塚：学級閉鎖時でも授業ができるのは良いと思う。ネット環境の状況として全家庭課題はないのか？

→仙波：家庭にWi-fiがない場合に貸し出せるルータが10台あるが、ほとんど貸し出しなく、全家庭でネット環境が整っている。

・下田：3年ぶりにクリスマスコンサートが開催され、生徒はブランクが有り体験者がいない中でも、気持ちよく行動してくれていた。素晴らしいと感じた。

・真下：職場体験を実施することができたが、感染症の関係で受け入れができない事業所があり、新しく打診して受け入れてもらった。サイトを作成して、フィードバックを行った。

→和田：商工会に協力をいただいた。地域で受け入れの事業所が増えるとありがたい。

・青塚：PTA組織がどの学校でもそうだが危うい状況である。育成会など他の地域の活動との接続の役割がなくなってしまうと、地域とのつながりもなくなってしまうのが懸念。市内の小学校でPTAがなくなった学校も生まれてきており、そのような小学校出身の保護者に理解を得ることが課題になってくるかもしれない。

→伊野：先日の小中交流会は大盛況であり感謝申し上げます。コロナ前までは、育成会の各行事で中学生のボランティアを募集していた。来年度から通常通りに戻ってくるとすると、中学生の力を借りていきたい。育成会としては、中学生と地域とのつながりを維持していきたいと考えるので、PTAの協力は歓迎である。

・下田：自治会に参加する住民が少なくなるなど、地域の防災力が課題になってきている。学校で行っている防災訓練を、自治会など、地域と協働して開催ができるとありがたい。

→須田：小学校と中学校では、どのような防災訓練を行っているか担当者間で共有している。

→石田：長らく様々なパターンで小中合同防災訓練を行っている。地域で自助・共助を育てていければと思う。

→青塚：学区で合同で防災訓練を行うことは、実際に即して意義があると思う。小学校に中学生が来てくれることはとてもありがたいと感じる。

→谷 : 避難行動要支援者の支援ができればと思う。八王子東高校では、近隣の自治体に声をかけて、備蓄品の確認などを行っている。そのような例なども踏まえて検討していただければと思う。

・木村 : スクールカウンセラーが2名になるとよいという意見についてはどうか。

→和田 : 現在、都のカウンセラーが週2日来校しているが、市のカウンセラーが別にあるので、一中に派遣してもらえるように要請した。

・山本 : 相談に対して親身になって対応したという取組指標は4でありたい。いじめ問題はどこにでもあり、0にすることは難しいが、教員が取り組むんだという結果はしっかり果たしたい。

→石田 : 保護者の担任に対するメッセージが、嫌な思いを感じてしまう内容のものがあつたりと、大人も考えていく必要がある。

4 その他

○(和田) 卒業式について、今年度は来賓を招待することができるとなったため、評議委員会の方に招待状を出させていただいた。会の時間短縮の都合上、評議委員の方々ですとまとめて紹介させていただく。

○(和田) 来年度の評議員会の組織について、各団体から1名としたいと考える。また、学識経験者を可能であれば招集したいと考えている。